

日 時：平成22年6月3日（木）18：30～20：40

会 場：練馬区役所本庁舎 20階 交流会場

#### 1. 事務局長挨拶

社協の計画の柱になる取り組み項目の体系図に付け加えをしたのでご意見をいただきたい。そして、重点事業のひとつ小地域福祉活動の具体的な取り組みや方法をあげたのでご意見をいただきたい。また、計画の作業が遅れている。区の方でも地域福祉計画の見直し作業が行なわれている。社協の活動計画も地域福祉計画に整合を図りながら定め、作業部会を設置して、ピッチをあげていきたい。本日はよろしくお願ひしたい。

#### 2. 新委員紹介

#### 3. 配布資料確認

当日配布 資料1・2

#### 4. 次期活動計画について

委員長・・・秋には計画の大枠をまとめると思うので、実質あと数ヶ月になってくる。活発な議論をしていただきたい。

##### ①次期（第3期）地域福祉活動計画策定に向けての説明

###### 【意見・質疑応答】

- ・地域福祉推進委員会と地域福祉活動計画策定委員会は同じか。  
→地域福祉活動計画策定委員会は社協の委員会。地域福祉推進委員会は区の委員会で評価や進捗の確認を担っている委員会。

##### ②練馬区社会福祉協議会取り組み項目の体系図の説明

###### 【意見・質疑応答】

- ・3月の時点よりもスマートになっている。

##### ③重点事業「小地域福祉活動事業」の推進方策（案）の説明

###### 【意見・質疑応答】

- ・補足だがアウトリーチとは待っていて相談を受けるのではなく、出かけていくこと。コミュニティワークの実績はあえて書かなくてもよいのでは。特定の課題から地域全体の課題が見えてくる。表にたくさんあらわれているわけではないが、その課題をどうしていくかということ。地域全体の課題にしていくという目線があるということ。

- ・圏域について3万人だと何十ヶ所も必要ではないか。
- 福祉事務所が4ヶ所あり、その4ヶ所の中の社協の拠点やボランティアコーナーを中心に3万人くらいの想定で考えている。高齢者相談センターの支所と同じ様な感じになる。そのため数は多くなる。
- ・ 圏域は人口3万人の設定が多い。立川は人口16~7万人で6地区。市川市は44~45万で14地区。
- 新座市は17万で6地区。イギリスも3万人エリア。
- 地域包括は中学校区で大体3万人。立川は行政の地域福祉計画に地域福祉コーディネーターを6人配置と載せていた。市川は14人の地域福祉コーディネーターを配置すると載せていた。実際には立川は1人分しか予算化されなかった。6地区を満遍なく見ると薄まるのでそのうちの1地区からやり、きめ細かくできた。そのことが評価され今年からもう1人配置された。
- 市川は3人分の予算しかつかなかったため、北部・南部・中部に1人ずつ配置したが、範囲が広すぎて1人で見ることで薄まってしまった。やるとしたら立川方式のように重点的にやった方がよい。一定の地区で取り組みがうまく進むと、他の地区からも地域福祉コーディネーターの配置の要望が出てくることもある。
- ・ 障害者福祉人材育成センターの内容について聞きたい。
- 社協が運営するとは決まっていないが、今までの実績から専門職向けの研修や住民向けの研修を社協が運営できたらよいと考え重点事業にあげている。障害者施設、事業所に従事している方たちを対象に専門研修などをやっていきたい。相談委員会で企画する拡大ケース検討会議は包括支援センターや保健師にも声をかけて開催している。
- ・ この計画にクレームはない。「ひとりの不幸も見逃さない」とあるが高齢者や身体など障害の人たちも入る。不幸は人によって違う。不幸はどこに基準を置くのか。つながりのある地域を作るにはみんなが心を開かなければいけないのに個人情報の問題についてどうして行けばよいか。どこまでが権利でどこまでが義務でいろいろな問題点がありこれを一つにするのは無理があるのではないか。
- 社協の計画上の理念として、職員1人ひとりが仕事を進めていくために、意識をしながら取り組んでいこうという意味で理解していただきたい。
- ・ 財政難の時代にバラまきをやっていいのか。公助で進めるのは小さくした方がいいと思う。国民一人ひとりが自覚してそれを手助けする方法があつていいと思う。
- ・ 行政が作る計画には、住民が参加して自分たちで何とかしてほしいという根っこの背景があると思う。住民が自ら参加すること、それならやろうと思うことが大切。やらされると思うとよくない。住民としてはやらされるなら自分からやった方がよい。計画の中ではどういう風に持っていくかが難しいところで、予算があつた時の体質は残っている。多くの人たちが納得して変えていくことが大事ではないか。
- ・ 社協の役割は区民からみると住民が自主的に動き出せるために環境作りをすることではないか。担当を決めて地域に出るとあるが、最初は現在活動している団体を手助けすることから始めるのがよい。住民が自発的に動くには住民の「意識」が必要。千葉の常盤平団地や多摩ニュータウンの永山地区など高齢化率30%の古い団地になると住民が何とかしないといけなさと考えだす。光が丘も高齢化率が高くなってきているが、そこまではいつていない。練馬は町会があるがおそらく意識はあまりないと

思う。意識をどうやって作るかが大切。担当に任せないで区や社協が組織的に取り組むことが必要だと思う。

→委員が思っているようなことをやりたいと思っているが伝わらずすみません。意識改革については、社協職員は地域に出ればいいと言っているが、ただ社協職員が地域に出るだけでは、誰も振り向いてくれないと思う。だが、社協職員がどういう意識で町会に入るか。住民の人たちがどういう風にしたいかを一緒になって聞いて、一緒になって取り組んでいく中で、社協職員の姿を見ていただく中で地域住民の方々の動機付けになり、お互いに何とかしたいとなっていくと思う。社協はずっとやってきたと思っている。

- ・そういう風に受け取れるように書いてほしい。(このままパブコメに出れば印象として社協の専門職が一段上にいて現地の人材育成や指導に当たるという風にとられないか。)
- ・社協は意識の高い人がいると思う。社協が先導役になるならば常勤で費用をかけていいと思う。
- ・小地域福祉活動として社協の地域福祉コーディネーターを配置しても、それについてのマニュアルはない。どこから取り掛かればいいのか。センスのいい職員を置かないと取り返しのつかないことになる。その職員をバックアップしていかなければいけない。臨機応変に「ツボ」を探しながらやることを上手く表現できればいい。取り組みの課題とかボランティア・市民活動コーナーを拠点にすることのメリット、デメリットについての意見はあるか。
- ・地域生活支援センターの役割を担うとあるが、地域生活支援センターと連携をしていくのか。

→ボランティアコーナーを利用している人達が地域生活支援センターの役割をしていると言っている。その役割を担っていると思い記載している。

- ・制度的なものだと何箇所も作れないが、そのような役割を担っている。必要であれば専門的なことは繋いで行けばいい。
- ・地域生活支援センターという表現を使うと、利用する人が混乱してしまうのではないか。

→(資料を)外に出すことはない。

- ・この委員会で一方的に話をさせていただくのは、違和感を感じる。社協職員と交流する機会があるといいと思う。一般住民がどう思っているかを伝えるのが私の役割。社協に対しての認識は、最初は「地域のためにそんなことしてくれるの」ということだった。そこから社協への認識が深まらないのは社協が謙虚？なところだと思う。その次に、福祉活動への参加をすすめ「その気にさせる」のが上手と思った。その気にさせられたと思う人が増えるといい。社協を理解してもらうには社協がサポートしたことでこんないい事があったという例があるとよい。団体としては社協に望むことは、自分たちがやっているような性格の他の団体をいつも探していることを知っていてほしい。なかなかたどりつかないので、希望は小地域福祉活動が進んでいく中で、できれば練馬区のいろいろな団体と懇談会や交流会ができるといいと思っている。また(社協職員による)地域へのアウトリーチという言葉が出たが、私達の会の定例会では、いつも問題が問題で終わってしまっていて、解決まで至っていない。社協の職員がいればヒントを与えてくれるだろうと思うのでたまには来てほしい。社協にとってもボランティア団体の定例会などへの出席は地域を理解する早道になると思う。関町コーナーの方が関町児童館の運営委員会に出席してくれているのもいいと思う。社協職員が入ることですぐ他の団体と繋が

りができるし、もし、小地域福祉活動が進めば色々な会への出席も期待できるのではないか。社協の職員が全員1年に1回くらい色々な地域や団体訪問、懇談会などに参加できるといいと思う。そのほかお伝えしたいことは以下の通り。最近、社協にお世話になったことでは、パワーアップカレッジの方が関町ボランティアコーナーのこれボラに参加し、ボランティアコーナーが私達とパワーアップカレッジの方を結び付けてくれた。パワーアップカレッジの方がパソコン入力のボランティアに入ってくださって私たちは助かっている。それから団体が助成金に応募するとき。社協が助成金申請の相談に乗ってくれるのを最近知ったので、もう少しそのような支援をアピールして掲げてくれてもいいと思う。また福祉人材センターについて。私の周りにはヘルパーの資格を持っている主婦がたくさんいる。資格をもっているのに働いていないといった人も障害者福祉人材センターに結びつくのではないかと、思った。

- ・小地域福祉活動のイメージはなかったが、具体的になってくると今までコーナーでやっていたこととそれほど変わらないではないかと思う。地域福祉コーディネーターとボランティアコーディネーターと一緒に、得た情報を共有して解決の方法に持っていく方向であれば機能していくのではないか。人材がどのような人であるかで全然違ってくる。人と人との出会いが広がっていくのではないか。ひとが次々と変わるようではだめだと思う。
  - ・提案だが、委員の方々に個別に意見を聞いて、2週間くらいで取りまとめて整理した方がいい。まだ議論が足りないと思うので、そこをスタートに作業部会を作り練って作業部会で話したことを随時委員の方にフィードバックして意見をいただく形で練り上げた方がいい。
- みんな交通費もなくやる気のある職員がたくさんいる。組織で応援する体制がある。
- ・職員みんなで作った計画と思えるように進め方をどうすればいいのか考えてもらいたい。

#### ④練馬区社会福祉協議会経営改革についての説明

##### 【意見・質疑応答】

- ・今やっている事業のスクラップを考えるのか。
- 今見直している。
- ・スクラップするのは大変で全体の業務量や労働の能力は限られているので優先順位をつけざるをえない場面もあると思う。
  - ・職員の育成はどういうことをやるのか。社協に望まれていることは住民が困った時に役に立つこと。いろいろな問題が出たときにいろいろな機関と連携と取って解決できればいい。個人じゃなくてもいい。社協本部や地域との連携や地域との人脈が蓄積されてきていると思うが、普段から人脈や連絡の仕方、動かし方を社協としてやっていたら機能できる。社協として相談を受けた時にパッと動ける体制ができていればいいと思う。
  - ・それは自分の担当の仕事ではないと思わない方がいい。わからなければ聞けばいい。人の問題を解決すると思うことをベースにすればいい。私もめんどくさいこともあるが、できることはするができないことは人を紹介する。この人の問題を解決したいと思うことが大切。技術はその上にくること。
  - ・この問題は指数化できる問題ではない。相談を受けた人が自分の仕事として捉え、できなければあら

ゆるところに相談すればいい。姿勢や考え方の問題である。

- ・光が丘でのモデル事業についての意見があれば。
- ・人との繋がりがもう一人のつながりを作る。光が丘は 28 年目の地域である。光が丘全体では 65 歳以上が 20 パーセントを超えている。6 年前から老人クラブを立ち上げている。食べることでは人と人とのつながりができる。テニスやゴルフ、卓球など 14 くらいの会がある。色々な会があり、会を通して隣の家が見えてくる。何か起こった時は即動くことが大切。積極的に動くようにしている。1 万 2 千世帯もあればいろいろな事件が 起こっても当たり前だという気はしている。色々な問題が山積している。色々な問題はあっていいと思うがそれをいかにして解決していくことが大切である。人と人との繋がりが地域福祉の基本である。
- ・活動する住民が増えてくると委員も楽になってくる。

#### 5. 現計画の進捗状況についての説明

#### 6. まとめ【委員長・副委員長】

- ・委員の方達の話聞いてその通りと思った。「ひとりの不幸も見逃さない」という理念のためにも小地域福祉活動は大切だと思った。昔、社協の職員からそれがボランティア活動と言われた。そういう人たちはたくさんいるし、地域は人材の宝庫。まず、社協職員は自分の仕事を楽しむこと、それがないと一緒になってやろうとは思わないと思う。その人の問題を絶対解決する、それにはどうすればいいかを考える。ボランティアコーナーの職員は地域に出ている。地域の最前線にいる人たちが常勤化していけるとよい。社協職員全員がその気になって動かないとこの計画はうまくいかないと思った。
- ・作業部会をやっていろいろな意見を聞いてつめていくといいだろう。

#### 7. 次回の日程について

- ・9月15日（水）18時30分～ 練馬区役所本庁舎 20階 交流会場